



秋山茂仁さん(左)らが引き継いだ移動販売。継続には課題もある  
＝市川三郷町内

## 峡南地域の移動販売 再開半年

運営事業者の病気のため休止した市川三郷町などを巡回する移動販売を、地域おこし協力隊員と甲府市の企業が引き継いで半年がたった。新型コロナウイルス感染症拡大で外出自粛の動きが広がったこともあり、「近場で買いたい物があったので巡回コースに入れてほしい」との要望が寄せられ、販売先は当初より6割増の約80カ所に。一方で、経営面では「仕入れやガソリン代を差し引くと利益はほぼない状況」(事業者)と、継続には課題がある。



〈手塚美菜子〉

# 集ごもりで巡回先増加

市川三郷町市川大門の企業の駐車場。移動販売車から住宅街に音楽が流れると、近所の住民が買い物袋を手に家々から出てきた。1人暮らしの女性90は「近くで買いたい物ができて便利で大助かり。自分で商品を選ぶのが週1回の楽しみ」と笑顔を見せた。

移動販売をしているのは、市川三郷町地域おこし協力隊の秋山茂仁さん(46)。1月までの約6年間は同町大塚の「星野商店」が運営していたが、事業を手掛ける星野賢史さんが病気のため休止。星野さんは39歳で亡くなった。移動販売は秋山さんたちと飲食業などを手掛けるエファールデザイン(甲府市)が引き継ぎ、4月に再開した。

現在は2台態勢で、市川三郷町や身延町などを巡回。再開直後の4月は約50カ所だったが、新型コロナウイルスの感染拡大で外出自粛ムードが広がり、「買いたい物には不便な地域。密を避けたいので販売先に加えて」などの要望があり約80カ所に増えた。

### 交流する場にも

秋山さんは「家族に頼んで買い物してきてもらう高齢者も少なくない。移動販売は『自分で選

## 利益少なく事業継続に課題

んで買いたい物する」楽しみがあるだけでなく、高齢者が近所の人たちと顔を合わせ、交流する場にもなる」と意義を強調する。一方で、事業の継続には課題がある。1日の売り上げは平均約6万円、再開後はほぼ横ばい。「来客が1人の巡回場所もあり、全体では利益はほぼない」(同社)という。地域おこし協力隊員の秋山さんの人件費は現状は国が負担。秋山さんは「任期が終わってさらに経費がかさめば、移動販売を事業として続けていけるか分からない」と不安を口にする。

### 行政の支援必要

移動販売業を巡っては、自治体による助成事業もある。県内では山梨市が市内事業者を対象に、車両修繕費などとして20万円を上限に補助。県外ではより手厚い制度を設ける自治体も。鳥取県は地域の中山間地域で見守り活動も行うことを条件に、生産払いで燃料費など年間最大185万円を無期限で補助する。同県中山間地域政策課は「地域で相互の見守りが難しくなる中、移動販売とともに見守り活動を継続してもらうため期限を設けていない」と話している。

### NPO法人専務理事として

同県で買い物難民の支援に取り組んでいる都留文科大の渡辺豊博特任教授は「行政は事業の公益性を踏まえ、事業が軌道に乗るよう支援することが大切。事業者が融資を受けやすい環境をつくる必要がある」とした上で「事業者側も、一部は注文制にして売れ残りを減らすなどの工夫が求められる。官民連携し、持続可能なビジネスの構築が必要」と話している。

# 峡南

手塚美菜子  
小林 諒一

(0556)22-5431, 5432  
FAX 22-1797